

Bonjour

ボンジュール!!

2016年
1月22日号

Vol.284



IMF見通し

「今が(I)まさに(M)踏ん張り時(F)」?

● 世界経済成長見通しを下方修正

2016年1月19日、国際通貨基金(IMF)は世界経済見通しを発表しました。

2016年の世界全体の実質国内総生産(GDP)の成長率は、2015年10月時点の予想に比べ、0.2%下方修正され、前年比3.4%となりました。

地域別でも、先進国、新興国ともに下方修正されています。

● 主な要因は?

主な要因として考えられるのは、**中国の景気減速や原油価格急落による新興国、産油国の景気減速の長期化**です。

なかでも、注目されるのが中国の景気減速です。今回IMFは中国の成長見通しを2016年6.3%、2017年6%と据え置いたものの、習政権のもと、投資主導の経済から消費主導の経済への転換がうまく進められなかった場合、想定以上の減速が起きる可能性もあり、それが世界経済に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

ただし、**足元の状況をみると、先日中国政府が発表した2015年GDP成長率は6.9%と予想通りとなりました。**

これは、中国当局が行った金融緩和や規制緩和などの景気下支え策の効果だと考えられ、現状のところ中国政府の「想定通り」とい

ったところでしょうか。

● プラス面も

IMFはマイナス面ばかりではなく、プラス面にも触れています。

そのひとつが資源価格の下落が輸入国にとってエネルギーコストの低下になり、ユーロ圏など先進国景気が下支えされる可能性です。

また、昨年12月に利上げを行った米国ですが、今後の利上げペースは緩やかだと思われる、住宅市場や雇用市場の改善から2017年も2016年同様2.6%成長を予想しています。そして足元で政治面でも経済面でも困難な状況であるブラジルは、2016年は-3.5%成長と予想されていますが、2017年にはゼロ成長に戻るとIMFは見えています。

今回の株価等急落で、2008年のリーマン・ショックの波乱相場が思い出されて心配になりますが、**下方修正されたとはいえ、世界経済は今後もプラス成長が見込まれています。このような混乱時には今一度、ファンダメンタルズ(基礎的条件)を確認することが必要です。今のところ中長期のファンダメンタルズの予想値には大きな変更がないことが見えてくるのではないのでしょうか? 「今が(I)まさに(M)踏ん張り時(F)」**かもしれません。